

美しく、暖かそうだが釜は流れ落ちる水飛沫で、風がまっ
ていて、寒々しい。ここは左岸から入ってきているルンゼ
を登りつめるが、上部で岩壁に行く手を阻まれる。この岩
壁の基部を右方向に巻き、チムニーから強引に乗越すが、
体がやっと入るほど狭いので、ザックを去して登る。チム
ニーを抜けると上部は、伐採の為の枝に悩まされ、喘ぎな
がら山道に出た。

細久保谷左保も、グミの滝から上部は、平凡な流れにな
るので、溯行はここで打切り、一杯水まで、山道を登るが、
足が冷えきっているの、非常に辛い、ジグザグ登りとな
った。旧細久保林道をまたぎ、古い道標に従って、一杯水
と仙元峠の間に出る。一杯水の水場がコンクリートとポリ
バケツによって補修されているのに驚いていたら、ヨコス
ズ尾根分岐に一杯水避難小屋が建っていたのは、もっと
驚いた。一〇月五日(日)に利用した人が一番最初だった(小
屋のノートから)。なかなかたのもしい小屋で、薪も沢山
用意されている。西谷小屋が使えなくなった代りの、避難
小屋だそう(小屋のノートから)。青い空と、小屋の赤
い屋根が印象的だった。下山は小屋の裏手から、三ツドッ
ケに登り、シャクナゲ尾根を下降する。細々とした踏跡が
あり、これを辿るが、途中、イノシシの又夕場を見る。残
念なことに、何もハブニングは起こらなかった。犬麦谷に
入溪した時は大栗尾根を下降したがまだ自然林が多かった
為か、歩きやすかった。しかしシャクナゲ尾根は一度伐採
が入っているので、五月合宿の和名倉より歩きにくく、も

しばしの休息に見上げた空は、雲も去り日差しが柔らかに
雪を照らし出す。さらに登りつめると上の芝の広々とした
雪原に出た。巻機山、谷川岳方面の、雪をいただいた急峻
な姿が壮観だ。

神楽峰をまき、雷清水^{カミシズキ}で水を補給し、一気に鞍部まで下
ると、最初で最後の急登を、息絶えだえに登りきると、二、
一四五mの高さにあるとは信じられない広大な頂上に着い
た。

タイム 祓川 6・20 | 和田小屋 7・35 | 上の芝 9・30 |
55 | 雷清水 10・35 | 45 | 頂上 11・40

☆一月三日(祝) 雪 (苗場山―元橋)

朝起きると二〇センチ程の積雪があり、折角前日捜して
おいた赤湯へのルートが不明瞭になってしまった。勘に頼
りながらトレイルのない処女雪を踏みしめて行くと、昌次
新道の指導標を見つけた事ができた。湿原保護のため木道
となっている夏道をピッケルと勘で捜しながら赤湯を目標
す。雪に埋もれた木道を踏み出すと膝上まで潜ってしまった。
た。

地図の岩場記号の場所を下ると明瞭な尾根道となり、ラ
ッセルを楽しみながら下る。赤湯が近くなると積雪量はめ
つきり減って、雪の下に隠された木の根や石のため皆バラ
ンスを崩す。

サゴイ沢に降りて丸木橋を渡る。赤湯は目と鼻の先なの
でここまで来れば、と安心していたらさにあらず、赤倉山

し幽かな踏跡がなかったら、悪戦苦闘しただろう。天目山
林道に降りてからは、林道を利用して車デポ地まで下るが、
谷が複雑なので、遙か彼方に、これから歩く林道が見えて
いやになった。細久保谷左保は全般的に、悪場もなく、の
どかな感じの谷であったが、前日までの雨模様天候が嘘
のように晴れて、ラッキーな一日であった。(小沢盛男)

タイム 左保橋 8・50 | 55 | 沢に降りる (倒木三Mの滝)
9・08 | 11 | 壁状四〇米の滝下 9・59 | 奥の二保 10・36 |
グミの滝 10・55 | 11・23 | ワラジをぬぐ(ワサビ田下) 11
・47 | 12・00 | 水源林道 12・45 | 13・00 | 一杯水避難小屋
13・15 | 25 | 三ツドツケ 13・40 | 林道 14・39 | 59 | 左保橋
戻り 16・09

2016 苗場山(鬼怒沼変更)

期 日 一月二日(日) | 三日(祝)
参加者 野村CL 藤井SL 石山 小沢 以上四名
報告

☆一月二日(日) 霧一時晴(祓川―苗場山)

祓川からゆるくカーブしている砂利道をゆっくりと歩き
だした。空はどんよりと曇り、秋の色鮮やかな紅葉を楽し
みに来たのが、すっかり冬の装の山を見て、大いに残念が
ってはみたが、雪山に登れる嬉しさの方もひとしおであっ
たのだ。

頭上にリフト、左手に和田小屋を見ながら、下の芝、中
の芝へのダラダラと続く緩やかな細い雪道の登りに疲れ、

から派生している小尾根を越えるのに一汗かかされた。
赤湯は清津川の溪谷の中に静かなたたずまいを見せてい
る。小屋のおじさんも気さくな感じの人である。露天風呂
に入湯してから下山したいところだが、これからのアルパ
イトを考えるとそんなささやかな夢もどこかに飛んでしま
う。

鷹ノ巣峠は釣橋を渡ったジグザグの急登から始まる。長
い登りだが雪化粧した景色が目を楽しませてくれた。

峠を下り、浅貝への林道へ出る。普通なら林道を下り人
里に出れば山行は終る。しかし苗場山の場合は、なんと林
道を登って行くのである。

車道をかれこれ登り、小さな指導標に導かれて沢に降り、
小尾根を越え、また林道へ下り、浅貝川を渡る。こんどこ
そ最後、国道17号線・元橋を目指してジグザグに登る。

赤湯から数えると、尾根越えを三回、林道を二回、歩か
されたことになる。以前も感じたのだが、苗場山は祓川か
ら登ると身近に感ずるが、下山してしみじみ考えると、や
はり遠い山なのだと思った。

(小沢 盛男)

タイム 苗場山頂 7・00 | 下山路入口 7・55 | 8・05 |
サゴイ沢 9・55 | 10・05 | 赤湯 10・30 | 45 | 林道 12・05 |
10 | 元橋 14・20

◎ 発達した低気圧が去った後、三日は移動高が日本を覆
った。十一月始めなので晴天になる事を期待して頂上に暮
営したが、冬型となり、夜は寒かったが最上の粉雪を楽し
む事ができた。